

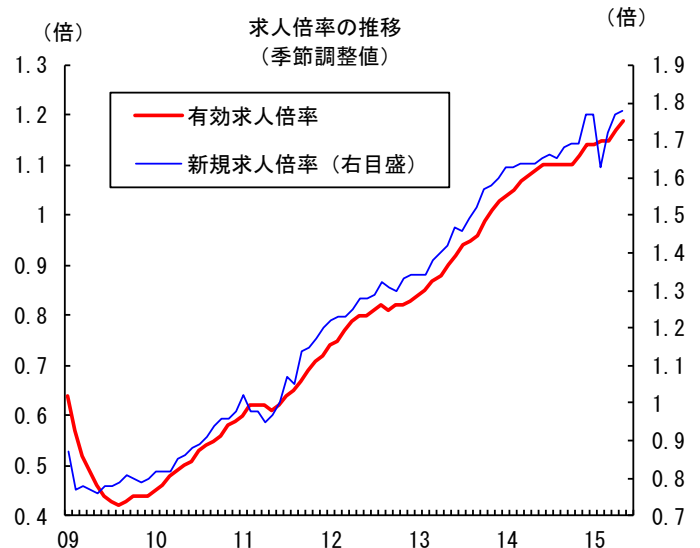
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2015年5月） 発表日：2015年6月26日（金）  
 ～雇用環境は引き続き良好～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

## ○ 雇用者数が増加。良好な内容

総務省から発表された2015年5月の完全失業率は3.3%と、前月と同水準となった（市場予想：3.3%）。これは1997年4月以来、18年ぶりの低水準であり、労働需給の引き締まりが示されている。

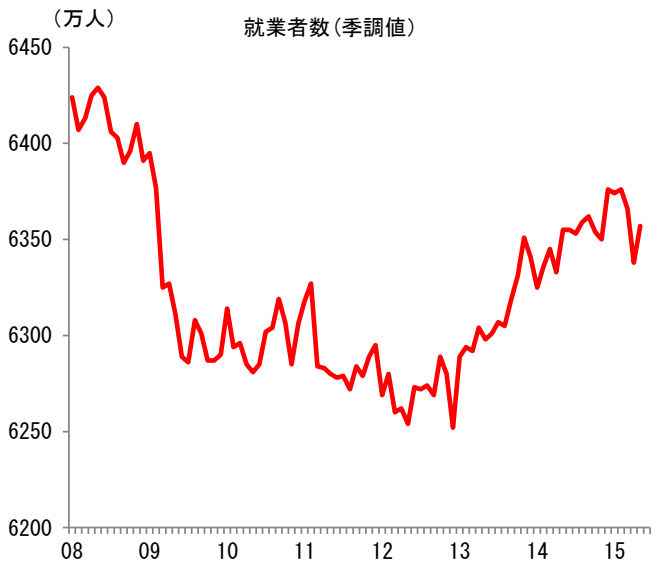
また、5月は失業率が低水準であるだけでなく、季節調整済みの就業者数が前月差19万人（4月：▲28万人）、雇用者数が前月差18万人（4月：▲23万人）と、ともに増加するなど内容も良好である。4月に雇用者数が大幅に減少し、先行きの動向が懸念されていたが、5月に落ち込みの大部分を取り戻したことで、ほっと一安心といったところだ。均してみると、雇用者数の増加ペース自体は15年入り以降やや鈍っている感はあるが、増加基調は途切れていないと判断できる。雇用環境は引き続き良好だ。

## ○ 求人は増加傾向持続

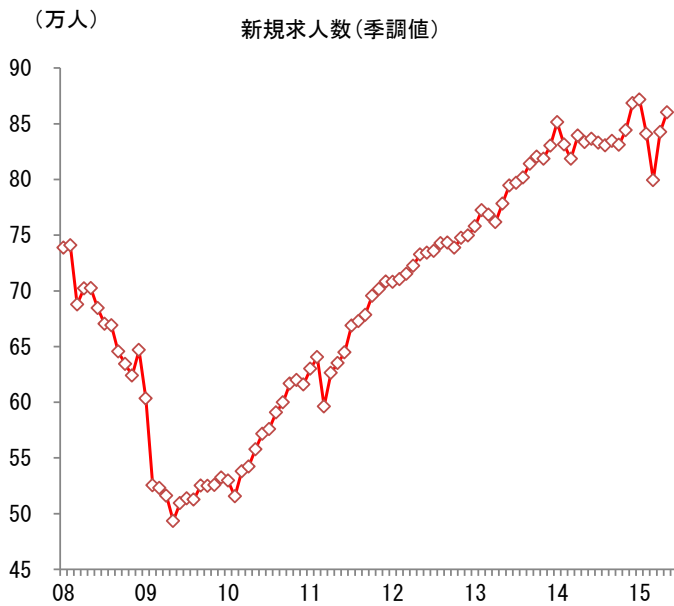
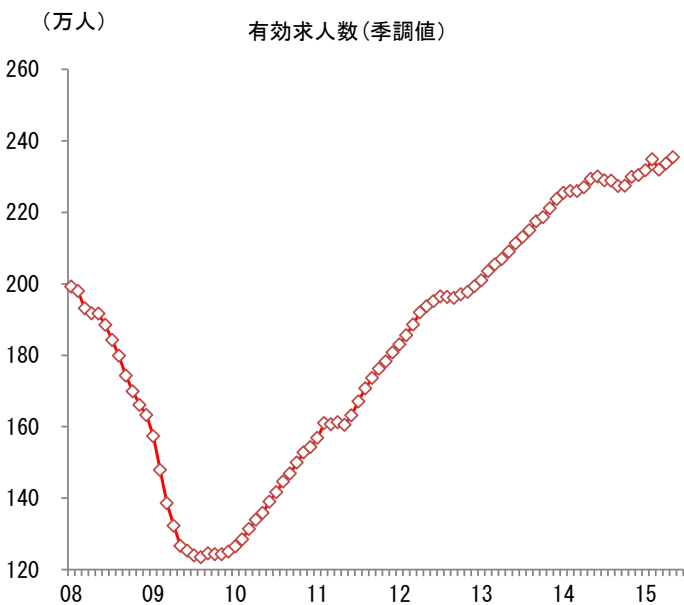
厚生労働省から公表された15年5月の有効求人倍率は1.19倍と、前月（1.17倍）から0.02ポイント改善した。これは1992年3月（1.19倍）以来の高水準であり、労働需給が引き締まった状況にあることが示されている。また、新規求人倍率も1.78倍と、前月から+0.01ポイント上昇している。新規求人倍率は2月に急低下（1月：1.77倍→2月：1.63倍）したが、3、4、5月と3ヶ月連続で上昇したことで、元の水準を取り戻している。

有効求人数は季節調整済み前月比+0.7%（4月：+0.8%）と増加、新規求人数も前月比+2.1%（4月：+5.4%）と増加が続いた。なお、新規求人数は2月に前月比▲3.5%、3月に▲5.0%に原因不明の急減を見せたが、4月に+5.4%、5月に+2.1%と増加し、概ね1月の水準まで戻っている。これらの急減、急増は季節調整が上手くかかっていないことに起因する可能性が高く、来年の年間補正、季節調整替えて数字自体が改定されることになるだろう。実態としては、有効求人数、新規求人数とも着実な改善が続いているとみ

られ、求人動向は引き続き良好である。このように、雇用者数に先行する求人数が改善を続けていることから考えて、先行きの雇用は増加傾向で推移する可能性が高い。引き続き企業の雇用不足感が非常に強く、採用意欲も旺盛であることも雇用の改善を後押しするだろう。



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。